

令和 2 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	(介保)一般介護予防事業	会計名称	介護保険特別会計		担当課	長寿介護課	
		予算科目	3 款 2 項 1 目	事業番号	8170	所属長名	室潤子
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	福積秀子	
法令根拠等	介護保険法				実施期間	【開始】	令和/平成 29 年度
総合計画での位置付け	健康福祉都市の創造 健やかで生きがいの持てる高齢者福祉の実践					【終了】	令和 年度(予定) ■ 設定なし
総合計画における本事業の役割	総合計画の施策を達成するために事務事業の役割を理解し、有効性等により事業の実施を行なう。						
事業の対象	第1号被保険者及び支援のための活動に関わる者			事業の目的	自立支援に資する取組を推進し、要介護状態になっても生きがい・役割を、もって生活できる地域を構築することにより、介護予防を推進する。		
事業の内容 (整備内容)	介護予防把握事業 介護予防普及啓発事業 地域介護予防活動支援事業 一般介護予防評価事業 地域リハビリテーション活動支援事業			昨年度の課題に対する具体的な改善策			

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	前年度実績	2年度予定	9月末の実績	2年度実績
直接事業費	6,384	21,222	0	0	0	18,471	介護予防教室の開催回数	回	114	80	31	74
国庫支出金	1,596	5,305	0	0	0	4,617						
県支出金	798	2,652	0	0	0	2,308						
地方債	0	0	0	0	0	0						
その他	3,990	13,265	0	0	0	11,535						
一般財源	0	0	0	0	0	11	介護予防教室の参加人数	人	2433	1800	481	1106
職員の人工(にんく)数	0.30	0.30				0.30						
1人工当たりの人件費単価	7,992	7,812				7,812						
※ 直接事業費+人件費	8,782	23,566				20,815						
地域リハビリテーション事業開催回数						47						
主な実施主体	直接実施		実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)		一部補助金	地域リハビリテーション事業参加人数	人	857	400	34	314	
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)					3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	5年間の合計		
					22,000	22,000	22,000	22,000	22,000	110,000		
成果指標	指標	介護予防普及啓発事業の参加延べ人数			単位	人	区分年度	前年度	2年度	3年度	目標	毎年度
	指標設定の考え方	高齢者が事業に参加することで介護予防の推進に繋がる。			⇒	目標	2000	2000	2000	2000	2000	
	指標で表せない効果	地域の通いの場の活性化が図られ、地域づくりに繋がる。				実績	2433	1106				

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		各地域の通いの場にて、介護予防の啓発に努めたが、コロナ感染拡大防止のため、縮小傾向となった。										
事務事業の評価	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。	4	合計点が	A	事業成果・工夫した点	コロナ禍にて、開催が難しい状況であったが、様々な媒体にて介護予防の普及啓発に努めた。また、教室開催時には、感染対策を徹底し開催した。			
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政事務に対応しておらず、見直しが必要である。	4					14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D		
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	4							
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4	合計点が	A					
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	4					14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D		
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進への貢献は多量である。	4							
	効率性	手段の最適性	手段の最適性	5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	4	合計点が	A	事業の苦勞した点・課題	令和3年度より保健事業と介護予防の一体化事業に取り組むこととしている。関係課と連携し、事業を推進していく必要がある。			
			コスト効率	5 4 3 2 1 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。	3					14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D		
		市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認められる。	4								
	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。	5	合計点が	A			事業の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業継続と判断する。</li> <li><input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する</li> <li><input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する</li> </ul> (判断の理由) 健康寿命の延伸のため、必要な事業である。	
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政事務に対応しておらず、見直しが必要である。	4							14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	4							
有効性		事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4	合計点が	A						
		成果向上の可能性	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	4			14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D					
		施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進への貢献は多量である。	4								
効率性	手段の最適性	手段の最適性	5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	4	合計点が	A	所屬長の課題認識	市民自らが、介護予防に積極的に取り組めるようさまざまな機会をとらえて推進していく必要がある。令和3年度からは、介護と保健事業の一体化事業にも取り組むこととしているので、工夫した事業の推進が必要である。				
		コスト効率	5 4 3 2 1 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。	4					14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D			
	市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認められる。	4									

施策を踏まえた判断	二次判定	<input type="checkbox"/>	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
		<input checked="" type="checkbox"/>	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
			【行政評価委員会委員選定事業】 各地域で運動教室やサロン等を開催することで、心身ともに介護等を必要としない状態維持に貢献する本事業において、「保健事業と介護予防の一体的取組」の開始と、コロナ禍による制限等を踏まえ、引き続き介護予防の必要性に対する普及啓発と参加促進を図る必要がある。	
			<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。			
<input type="checkbox"/>	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。			

行政評価委員会の答申	外部評価	<p>答申の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この成果指標を達成したとして、健やかで生きがいの持てる高齢者福祉が実現できるのか。指標の精査が必要である。</li> <li>愛媛大学と連携して健康づくり活動に取り組んでおり、今後も継続して実施してもらいたい。</li> <li>成果指標は延べ人数であり、実人数でカウントするとかなり少ない状況でないのか。成果指標から事業の実態が見えない。漫然と目標値2,000人と設定しているのではないか。数値に対する根拠をしっかりと持つべきである。</li> <li>何かインセンティブがあれば、挑戦してみようとする人が増えるかもしれない。既存事業との連携も検討すべき。</li> <li>介護予防を掲げて活動している以上、その成果がどのくらい出ているのか、目に見える形で提示する必要がある。</li> <li>評価シートの記載を工夫して、事業の具体的な内容や事業費の内訳が確認できるような内容に見直すべきである。</li> </ul>
------------	------	--

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断会議	事業の方向性		コメント欄 引き続き、関係課・関係機関との適切な連携を継続すること。また、外部評価の意見を反映し、活動指標の精査を行うこと。
	<input type="checkbox"/>	さらに重点化する。	
	<input type="checkbox"/>	現状のまま継続する。	
	<input checked="" type="checkbox"/>	見直しの上、継続する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。	